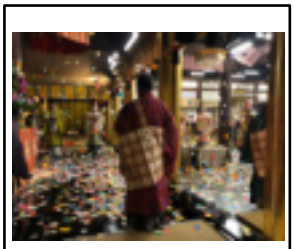
じゅこう

顕証寺 河内蓮如忌法要 参拝

五月十一日、八尾市久宝寺にあります顕証寺さまにて「河内蓮如忌法要」に出勤並びに参拝をさせていただきました。顕証寺さまもコロナ禍を乗り越えられ、新たな蓮如忌法要を模索しておられます。以前は百名を超す僧侶が来られていましたが、今回からは少数精鋭。それでも奏楽員や裏方を含めると五十名ほどは来られておられました。

ご法要に引き続きご法話があり、そしてご住職の挨拶をいただきます。その後には境内地や会館を利用して露店が準備されてありました。ぜんざいや手打ち蕎麦、コーヒーなど。私もいただきましたが、コーヒーなどを飲みつつ皆さんが談笑し合う姿に感銘を受けました。僧侶やご門徒さんの垣根なくご法要を楽しまれている様子がすばらしかったです。



『領解文』

もろもろの雑行雑修自力のこころをふりすてて、一心に阿弥陀如来、われらが今度の一大事の後生、御たすけそうらえとたのみもうしてそうろう。

たのむ一念のとき、往生一定御たすけ治定とぞんじ、このうえの称名は、ご恩報謝とぞんじ、よろこびもうしそうろう。

この御ことわり聴聞もうしわけそうろうこと、ご開山聖人（親鸞）ご出世のご恩、次第相承の善知識のあさからざるご勧化のご恩と、ありがたくぞんじそうろう。

このうえはさだめおかせらるる御おきて、一期をかぎり、まもりもうすべくそうろう。

「意訳」

わたくしは、さまざまな計はからいをまじえた自力の心をなげ捨てて、「阿弥陀さま、わたくしの来きたるべき浄土往生の一大事について、あなたの救いの働きにおまかせします」と、ただ一心にたのみにいたしております。

如来におまかせしたとき、往生成仏の身と定まり、如来の救いは確定したと信じて、その後の称名念仏は、如来のご恩に報いるものであると、喜びのうちにお称え申しております。

この「信心正因・称名報恩」の道理が聞きわけられたことも、浄土真宗を開かれた親鸞聖人がこの世におでましなされたおかげ、また、その後、代々、教えをひき継がれたよき導き手の方がたのお勧めのおかげであると、ありがたく存じております。

このように念仏申す身となったからには、定めおかれた御きまりは、生涯、守り通す決心でおります。

第50号
（通算390号）

発行元
浄土真宗本願寺派
吉冨山 浄覚寺
大阪市平野区
長吉長原3-1-10
06-6790-8350

浄覚寺ヨガ教室

- 6月21日（水）
  10時～11時半
- 参加費500円
- 浄覚寺本堂にて

☆ヨガマットの無料レンタルもあります。お友だちをお誘い合わせのうえ、お気軽にご参加ください。

願力無窮にましませば
罪業深重もおもからず
仏智無辺にましませば
散乱放逸もすてられず

親鸞聖人『正像末和讃』

御文章に聞く（第44回）

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸浄圓著 本願寺出版社

末代無智章（五帖第一通）

末代無智の・在家止住の男女たらんともがらは、こころをひとつにして・阿弥陀仏をふかくたのみまいらせて、さらに余のかたへこころをふらず・一心一向に仏たすけたまえと申さん衆生をば、たとい罪業は深重なりとも・かならず弥陀如来はすくいましますべし、これすなわち・第十八の・念仏往生の誓願のこころなり、かくのごとく決定してのうえには・ねてもさめてもいのちのあらんかぎりは、称名念仏すべきものなり、あなかしこ　あなかしこ

今回も御文章（蓮如上人からのお手紙）を味わっていきたいと思います。

「たとい罪業は深重なりとも」という言葉が出てきます。どれほど深く重い罪を持っている者でも、という意味でありますが、「罪業」とは、してはならないことに気づいたものの言葉だといわれております。

仏さまの教えを聞くまでは、自分の都合を中心に生きていますから、自分の行動は正しいものと疑わずに考えています。しかし、仏さまの教えを聞いて、はじめて今までの自分の生き方が自分自身に対しても、また他の人びとをはじめ、さまざまなものに対しても、考えられないほどの迷惑をかけており、まさに愚かな身であったと知らされるのでした。

その厳しい反省の自覚が「罪悪深重」という自らの言葉となって起こってきたのです。これは正しいものに出遇ってこそ起こる感性です。その意味で罪業・悪業の自覚は、真実に出遇った者の証明といえるでしょう。

仏教語辞典

栄西（えいさい）

永治元年（一一四一年）～健保三年（一二一五年）。臨済宗の開祖。宋に渡り禅を学んだ後、京都や鎌倉で禅を広めた。また『喫茶養生記』を記すなど、喫茶を日本に広めたため、「茶祖」とも呼ばれている。

『気になる仏教語辞典』
著・麻田弘潤　誠文堂新光社
仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

編集後記

今月も「じゅこう」をお届けいたします。

表面にて『領解文（りょうげもん）』のご紹介をしました。領解文とは本願寺の第八代蓮如上人が作られたとされる浄土真宗の信仰表現で、長きにわたって浄土真宗の聖典として大切にされてきました。阿弥陀さまのお救いを「私はこのように受け取っています」（信心）と、一人一人が表明することを「領解出言（りょうげしゅつごん）」と言います。各人がそれぞれに出言していたのですが、やがてそれが整理され異口同音に出言できるようになったのが『領解文』です。これは今からおよそ五百年前の蓮如上人がお作りになったと伝えられています。

ちょうど来年の六月に「浄覚寺バザー」を開催しようと企画しております。もしご提供いただける品物があれば、捨てずに保管いただけると助かります。

（釋法道）

行事案内

7月

日時・七月十六日（日）
午前十時～午後四時
行事・浄覚寺こども会　夏のつどい
場所・浄覚寺本堂　参加費・五〇〇円
（流しそうめんを復活させようと考えております。）
詳細は来月にお知らせします）

当山のYouTube「浄覚寺チャンネル」です。ぜひお聴聞ください。